

神経研究の進歩 第24巻 総目次

1980年(第1号—第6号)

数字は通巻頁数, () は号数

〔特集 神経疾患と免疫〕

神経免疫学序説—神経疾患病態に

おける免疫の特殊性—井形 昭弘… 5(1)

脳の自己抗原をめぐる分子免疫論

的考察…永井 克孝…12(1)

脱髄疾患における体液性免疫と細

胞性免疫…米沢 猛…29(1)

T細胞と神経疾患…桃沢 靖弘・矢田 純一…39(1)

補体と神経疾患…丸山 征郎…44(1)

免疫と神経, 神経免疫学の展望

—免疫不全を中心として—小林 登…56(1)

神経疾患の免疫抑制療法

…濱口 勝彦・大野 良三…67(1)

神経疾患における自己免疫機序

—全身性エリトマトーデスを

中心に—

大藤 真・宮脇 昌二・河本 紀一…81(1)

方法論としての免疫学—酵素抗体

法を中心—熊西 敏郎…87(1)

遅発性ウイルス感染症—とくに亜

急性海綿状脳症について—甲野 禮作…94(1)

多発性硬化症…田平 武…108(1)

Neuro-Behçet 症候群

稲葉 午朗・青山 順子・清水 保…119(1)

脳腫瘍と免疫…早川 徹・森本 一良

生塩 之敬・森 武貞…130(1)

Guillain-Barré 症候群と実験的ア

レルギー性神経炎…石原 好弘…139(1)

Plasma Cell Dyscrasia を伴う

ニューロパチーとその周辺疾

患…西谷 裕・小西 哲郎

野口 貞子・小川 道子…157(1)

重症筋無力症

…高守 正治・井手 芳彦

辻畑 光宏・江口 勝美…168(1)

〔特集 神経病理〕

会長挨拶…石田 陽一…217(2)

シンポジウム: 脳腫瘍—ヒトおよ

び実験脳腫瘍の問題点

Brain Tumors with Aromatic

Hydrocarbons…H.M. Zimmerman…218(2)

脳腫瘍の浸潤性発育からみた Glia

細胞の移動運動とその反螺旋

状突起

生田 房弘・大浜 栄作・山崎 一徳

武田 茂樹・市川 富夫・江川 重公…226(2)

小児脳腫瘍とアデノウイルス12型

誘発脳腫瘍…小川 勝士…242(2)

BK ウイルスの腫瘍原性…内田清二郎…252(2)

N-ニトロソ尿素によるラット脳

神経系腫瘍の発生と病理

前川 昭彦・荻生 俊昭・小野寺博志

古田 京子・小田嶋成和…255(2)

脳特異的蛋白 S-100と脳腫瘍—醇

素抗体法による検索—熊西 敏郎…264(2)

一般演題

大脳皮質, 皮質下諸核のほか, 小

脳皮質に多数のArgentophilic

Plaque と広汎な Amyloid

Angiopathy を認めた初老期

痴呆の1例

深津 亮・池田 輝明・上野 武治

田辺 正和・本間 均・木村 直樹

高畑 直彦…271(2)

海綿状脳症の動物接種実験(第2

報) 電顕的観察

佐藤 雄二・大田 典也・立石 潤…283(2)

中心前回に海綿状態とAstrocytosis

を伴う著明な萎縮を認めた

筋萎縮性側索硬化症

湯浅 亮一・水島 節雄・小柳 新策…293(2)

Kinky Hair Disease における視

床変性について

…岩田 誠・平野 朝雄

Joseph H. French …304(2)

人体剖検例による変性小脳歯状核

の電子顕微鏡的観察

小柳 新策・小阪 憲司・中村 陽子

内藤 明彦・飯塚 礼二・平山 恵造… 315(2)

同一家系内に視床系統変性症のみ

られた家族性ズダン好性白質

異栄養症の1剖検例

加藤 進昌・小柳 新策・阿部 敏明

松下 正明・安田 寛基・花田 耕一

風祭 元・小田 雅也… 330(2)

多発性硬化症を疑われ、剖検上、

中枢神経系各所に重篤な神経

細胞病変とグリオーゼ、脱髄

など多彩な病変を呈した1例

中野 隆雄・酒井 晴忠・木下 潤

柳下 三郎・伊藤 洋二・斎藤 豊和

小林 祥泰… 340(2)

第20回日本神経病理学会学術研究

会抄録・討論… 352(2)

〔特集 神経系における Lateralization〕

神経系における Hierarchy と

Lateralization, さらに左右の

統合へ… 豊倉 康夫… 461(3)

神経学における右と左

… 岩田 誠・豊倉 康夫… 464(3)

ヒト大脳皮質の解剖学的左右差… 堀 智勝… 479(3)

大脳半球間結合の解剖学

… 正村 和彦・川村 光毅… 497(3)

神経系における交叉の解剖学(そ

の発生学的考察) … 酒井 恒… 517(3)

霊長類の一側優位現象—Hand

Preference を中心として— 岡田 守彦… 529(3)

脳波における左右差と脳室拡大に

ついて… 大友 英一… 543(3)

交叉性失語… 伊藤 治英… 547(3)

漢字仮名問題と大脳半球的左右差

… 山鳥 重… 556(3)

脳梁切断例(Split-brain) からみ

た大脳半球的 Lateralization

… 杉下 守弘… 565(3)

大脳半球優位論の進展 よりみた

「劣位」半球の症状学—相貌

失認の問題を中心に— 浜中 淑彦… 580(3)

半側空間失認… 久保 浩一… 598(3)

利き手と四肢の一側優位性… 木村 邦彦… 610(3)

Stasiology からみた左足と右足… 平沢彌一郎… 623(3)

脳血管障害における右と左… 亀山 正邦… 634(3)

大脳半球摘除術と運動・知覚機能

… 植木 幸明… 644(3)

筋萎縮性側索硬化症における症候

の左右差… 近藤喜代太郎… 660(3)

Parkinsonism と左右差

… 島田 康夫・豊倉 康夫… 664(3)

脳腫瘍の左右差… 高倉 公明・佐野 圭司… 668(3)

日本人における大脳半球 Laterality

の特徴… 角田 忠信… 671(3)

〔特集 筋ジストロフィー症〕

1. Duchenne 型筋ジストロフィー

—症の遺伝と日本におけ

る実態… 近藤喜代太郎… 693(4)

2. 先天型進行性筋ジストロフィー

—症(福山型)の遺伝・

臨床・病理

… 大澤真木子・鈴木 陽子

福山 幸夫… 702(4)

3. 進行性筋ジストロフィー症の

筋病理—Opaque 線維を

中心として—

… 埜中 征哉・杉田 秀夫… 718(4)

4. 筋ジストロフィー症における

筋の再生について… 若山 吉弘… 729(4)

5. 筋ジストロフィー症と筋膜系

a. サルコレンマー—Freeze

Fracture を中心に一

… 納 光弘… 741(4)

b. Duchenne 型筋ジストロ

フィー症における電

子顕微鏡および高圧

電子顕微鏡による

T-system の研究

… 小口喜三夫・塚越 廣… 748(4)

c. スキンドファイバー法に

よる筋ジストロフィ

—病態の研究… 高木 昭夫… 756(4)

d. 筋ジストロフィー症の膜

異常—すべての細胞

は変装した筋細胞で

あると仮定して—

… 長野 泰甫… 765(4)

6. 筋ジストロフィー症と赤血球

a. 筋ジストロフィー症にお

- ける赤血球の形態
—走査電顕と凍結割
断法による観察—岩崎 祐三… 772(4)
- b. 筋ジストロフィー(ドン
エン型)患者赤血球
膜のESRによる解
析……佐藤 文三・錦田 晃… 780(4)
- c. Coil Planet Centrifuge
によるDuchenne型
進行性筋ジストロフ
ィー症患者赤血球の
浸透圧性脆弱性
……荒木 淑郎・俵 哲… 786(4)
- d. Duchenne型筋ジストロ
フィー症と赤血球
—生化学的研究につ
いて—……馬渡 志郎… 790(4)
7. 筋ジストロフィー症と蛋白分
解酵素およびインヒビタ
ー
- a. ロイペプチン……青柳 高明… 797(4)
- b. CANPとE-64……今堀 和友… 807(4)
- c. 筋ジストロフィーとプロ
テアーゼ—カテプシ
ン群とそのインヒビ
ターを中心に—……勝沼 信彦… 814(4)
- d. 筋ジストロフィー症とプ
ロテアーゼ
……杉田 秀夫・石浦 章一… 821(4)
8. 人骨格筋中のCreatine-Urea
PathwayとDuchenne
型筋ジストロフィー症
Creatinaseの異常
……三好 和夫・平良 章
吉田 健三・田村 克也
宇賀 茂敏・八木田正聖… 831(4)

〔特集 生物由来の神経毒〕

- 序………塚田 裕三… 859(5)
- テトロドキシン………小倉 保己… 860(5)
- 後シナプス膜に作用する蛇毒神経
毒タンパク………田宮 信雄… 870(5)
- β-ブンガロトキシンおよびクモ毒
成分………阿部 輝雄… 877(5)
- サソリ毒………岡本 治正… 887(5)
- ハチ毒………川合 述史・阿部 岳

- 堀 真一郎・丹羽 昭子… 898(5)
- イソギンチャク毒素………藤田 省三… 907(5)
- テタヌス毒………高野 光司… 919(5)
- メチルアゾキシメタノール………松谷天星丸… 932(5)
- コルヒチン・ビンブラシチン………村上 哲英… 948(5)
- 中枢神経組織に対するカイニン酸
の毒作用について
井端 泰彦・小幡 裕子・村部 義則
水川 公直・木下 晴生……… 962(5)
- ボツリヌス毒………廣川 信隆… 972(5)

〔特集 神経組織特異蛋白〕

- 脳の酸性タンパク質—Calmodulin
とS-100タンパク質—
磯辺 俊明・石岡 憲昭・奥山 典生… 983(5)
- 14-3-2蛋白とエノラーゼ活性………加藤 兼房… 1008(5)
- ミエリンの膜蛋白
植村 慶一・北村 邦男・鈴木 勝… 1020(5)

〔特集 脳のシンポジウム〕

- 開会の辞………榎林博太郎… 1053(6)
- 挨拶………渡辺 徹一… 1055(6)
- バラニューロン
a. バラニューロン生理学の
発展………菅野 富夫… 1056(6)
- b. 視床下部下垂体副腎皮質
系の階層支配特性—
システムのの中のバラ
ニューロン
………広重 力・金子 正則… 1065(6)
- 左右大脳半球特殊性
a. 大脳半球摘除術
i. 左右大脳半球機能
—人大脳半球摘
除術から—……植木 幸明… 1072(6)
- ii. ラット大脳半球摘除
後の観察から
—生化学的観
察—………佐武 明… 1075(6)
- ラットの大脳半球摘
除後の観察から
—学習とその保
持への影響—……竹中 治彦… 1081(6)
- b. 左右大脳半球離断症状
i. 半球間離断症候群よ
りみた脳梁内機

- 能局在について
岩田 誠...1089(6)
- ii. 左右大脳半球離断症
 候群.....杉下 守弘...1099(6)
5. 脳腫瘍
 a. 神経系の細胞発生と脳腫
 瘍.....藤田 哲也...1110(6)
- b. 脳腫瘍の実験的研究の進
 歩と問題点.....生田 房弘...1122(6)
6. 脳研究のあり方
 a. 基本的態度について.....榎林博太郎...1130(6)
- b. 脳の遊び.....黒川 正則...1133(6)
- c. 神経内科医の立場から
 た脳研究のあり方.....椿 忠雄...1134(6)
- d. W. Penfield をとおして
北村 勝俊...1136(6)
- e. 研究推進についての私見
内菌 耕二...1140(6)
- f. 形態学者より.....米沢 猛...1143(6)
- g. 育てられる者の立場から
藤田 哲也...1144(6)
- h. 神経内科の立場より.....黒岩義五郎...1145(6)
7. Neuropathology in Neuro-
 scienceFranz Seitelberger...1146(6)
8. 閉会の辞.....植木 幸明...1154(6)

〔綜 説〕

- 嗅覚の中樞機構.....高木 貞敬...1155(6)
- 味覚の中樞機構.....山本 隆...1176(6)

〔原 著〕

- 実験的アレルギー性脳脊髄炎催起
 活性リンパ球の産生と動向...大川 時忠... 182(1)
- Alzheimer 病と Pick 病における
 脳波像の変遷とその病理学的
 背景 I. 局在性および発作性

- 脳波異常と大脳萎縮
松元 寛仁・松本 秀夫... 191(1)
- L-DOPA 無効の純粹アキネジア
 —すくみ現象のみを呈した症
 例—.....今井 寿正... 838(4)
- 多発性硬化症臨床像の人種差—英
 国人と日本人の比較—
 柴崎 浩・W.I. McDonald・
 黒岩義五郎.....1032(5)
- ネコの視床後腹側核および PO 核
 群の体性感覚野 (S_I, S_{II}) へ
 の投射—HRP 法による研
 究—.....宮川 淑子...1203(6)
- 筋萎縮性側索硬化症の脊髓灰白質
 における神経細胞核の大きさ
 とその局在についての計測...小柳 清光...1212(6)
- ヒトポリオーマウイルス (JC Virus)
 による実験神経系腫瘍
大橋 威雄・西本 詮
 G.H. ZuRhein...1226(6)
- Parkinson 病に対する Carbidopa・
 Levodopa 合剤による長期治
 療の有効性と安全性—多施設
 における Levodopa 単剤に
 よる長期治療と比較して—
 加瀬 正夫・新城 之介・安藤 一也
 伊藤 清・大本 堯史・古和 久幸...1240(6)

〔書 評〕

- M. Oehmichen 著「Mononuclear
 Phagocytes in the Central
 Nervous System」.....北村 忠久... 202(1)
- Richard U. Margolis and René
 K. Margolis 編「Complex
 Carbohydrates of Nervous
 Tissue」.....御子柴克彦...1252(6)